マーケットデイリー

SMAM

（No.2,150）〈マーケットレポートNo.4,179〉

情報提供資料

2015年5月11日

今日のトピック　米国の雇用統計（2015年4月）

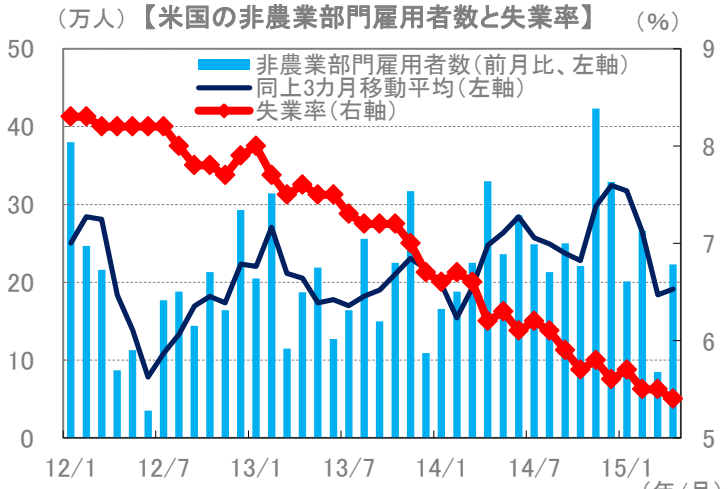
雇用者数の増加幅は前月から拡大

ポイント1　雇用者数は22.3万人増

3月の雇用者数は下方修正

■4月の非農業部門雇用者数は前月比22.3万人の増加となり、市場予想（ブルームバーグ集計）の同22.8万人増をやや下回る結果となりました。しかしながら3月の同8.5万人増（速報値は同12.6万人増）から大幅に拡大し、ひとまず雇用の復調が確認されました。

■一方、4月の失業率は5.4%と3月から0.1ポイント改善し、労働参加率も3月の62.7%から62.8%に上昇しました。



（注）データの期間は2012年1月～2015年4月。

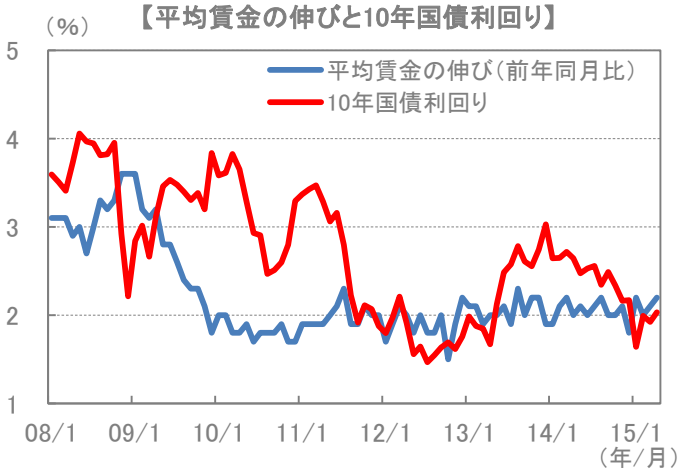
（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2　生産部門の雇用が回復

賃金の前年比伸びは小幅改善

■4月の非農業部門雇用者数のうち民間部門は前月比21.3万人の増加となり、内訳は生産部門が同3.1万人増、サービス部門が同18.2万人増でした。生産部門は建設部門の雇用増などにより3月の同2.1万人減から大きく回復しました。

■時間あたり賃金は前月比＋0.1%と、前月の同＋0.2%（速報値は同＋0.3%）から伸びが縮小しました。ただ前年比では＋2.2%と、前月の同＋2.1%から小幅に改善しましたが、依然として金融危機前の3%を超えていた水準に回復しておらず、賃金面からのインフレ圧力は限定的となっています。



（注）データの期間は2008年1月～2015年4月（月次）。10年国債利回りは月末値。

（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開　金融市場は雇用や物価関連の指標に左右されやすい展開を予想

■前月に雇用の伸びが鈍化したのは、悪天候など一時的な要因によるものとみられていましたが、今回の結果で労働市場の回復基調は損なわれていないことが確認できました。ただ力強さには欠ける内容であったため、早期利上げへの警戒感が後退し、米国の金融市場は長期金利低下、株高で反応しています。

■米連邦準備制度理事会（FRB）は利上げの条件として、雇用の更なる改善と物価上昇の合理的な確信を挙げています。6月16日～17日の米連邦公開市場委員会（FOMC）までにこの条件が満たされることは難しいと思われますが、金融市場は利上げ時期をにらみ、雇用や物価関連の指標に左右されやすい展開が引き続き予想されます。

ここもチェック！
2015年05月07日　米国のISM景況感指数（2015年4月）
2015年05月01日　米GDP統計と米株市場の動向

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。